＜東文研・ASNET共催セミナー＞

日中戦争期における三峡ダム構想

大谷光瑞とジョン・ルシアン・サヴェージの役割を中心に

中国の三峡ダムの構想は、これまで、「国家の父」である孫文（1866-1925）に由来するとされるか、1949年以降に採用されたソ連の近代化政策の一環であったと言われてきた。しかし、長江流域での大規模ダムの建設計画は、実は、日中戦争期（1937-45）に外国政府の間で「技術の進歩こそが中国の将来を形づくる」という意識が芽ばえる中で、形を成したのであった。

本報告では、その過程において重要な役割を果たした二人の外国人――近衛内閣の一員としてアジア開発に関する「大谷興亜計画」をまとめた大谷光瑞（1876-1948）と、米国務省連絡役として重慶を訪れ、長江への大規模ダムの建設を推奨する報告書を作成したジョン・ルシアン・サヴェージ（1879-1967）――に光をあて、結果的には戦争に邪魔される形で実現しなかったもののこれらの計画があったがゆえに、「技術の進歩こそが中国の将来を形づくる」という意識が育ち、1949年以降の中国の発展に期待が寄せられたと論じる。　※ 報告は英語で行われます。

◆日　時：　2013年 10月 17日（木）17:00-18:00

◆ 報告者　ポール・クライトマン氏（東洋文化研究所　訪問研究員）

◆ 会　場：　東京大学　本郷キャンパス内　東洋文化研究所　3F大会議室

◆ 参加費：　無料（申し込みは不要です）

◆ 問い合わせ：E-mail: asnet@asnet.u-tokyo.ac.jp

東文研・ASNET共催セミナー

東洋文化研究所とASNETは毎週木曜日の夕方にセミナーを開催しています。 どなたでもご参加頂けます。
皆様のお越しをお待ちしております。 詳しくはこちら：http://www.asnet.u-tokyo.ac.jp/

東大ASNET　検索

東京大学
日本・アジアに関する教育研究ネットワーク
Network for Education and Research on Asia
ASNET